

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
・理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営方針と理念を掲示している。また、職員一人ひとりに周知させている。	運営方針・理念を玄関や事務室に掲示し常に見る事が出来るようされています。また、名札等に入れ、常に携帯しています。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の自治会や学校の行事に参加する機会が多い。外出時は近隣の商店を利用するなど、日常的な交流ができています。	小学校の通学路があり、あいさつ運動にもご利用者と共に参加されたり、自治会の行事にも積極的に参加されています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で具体の支援方法を地域に紹介している。個別の相談には適切な関係機関を紹介する等の支援を行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の活動についての意見・感想や、地域の生活情報をいただいている。	運営推進会議に地域の自治会長や包括の職員などが参加し、ホームのお知らせや自治会のお知らせなどの双方の相談の場として話し合いが行われています。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括支援センターが運営推進会議に参加する際に実情を伝えている。	地域包括支援センターや市町村の担当者とも連絡を密に取り、また運営推進会議の際にも実情を伝えるなど、常に連絡・相談がなされています。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいます。	研修で身体拘束についての知識を周知している。また身体拘束をしないケアを実践するための話し合いを持っている。	玄関は施錠せず、常に開放的な状態でした。また、二つのユニットを自由に行き来できるようにされておられます。	
7		虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の研修機会を設けている。虐待の定義を理解して、原則遵守を徹底させている。		

8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度を利用している入居者がいる。必要性が認められる入居者と家族へは情報を提供して相談にのっている。</p>		
9	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書と契約書の内容を具体的に事前説明している。また起こり得るリスクや問題等も想像できるよう説明している。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が本人の様子や会話した内容について気付いたことを、尋ねるよう取り組んでいる。</p>	<p>面会時には積極的に話しをするようにされたり、家族団らん会を開催し意見交換の場を設け、反映されています。</p>
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>衛生委員会を設けており、職員からの意見や提案を運営に反映させている。</p>	<p>理事長にも会議に参加していただき、職員との意見交換の場を作り、意見や提案を直接運営に反映できるよう工夫がされています。</p>
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人事考課制度があり、適切な評価に努めている。チームケアを推進して、職員のストレスの軽減を図っている。</p>	
13		<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の勉強会に多く参加できるよう勤務を配慮している。</p>	
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域のグループホームと月に1回の連絡会を開催して、ケアの内容や運営について事例を紹介し合っている。</p>	

安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>傾聴や情報収集はもちろんのこと、本人が自身の願いや要望を表出できたり、実現方法を見つけられる時間をつくっている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ホームへの入居後、どのような家族関係に発展しているかを想像してもらるまで、丁寧に話し合っている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>グループホームの活動の様子を具体的に伝えて、ニーズとサービスが一致するよう努めている。</p>		
18	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家事等の日常生活を入居者自身が行うことはもちろん、それぞれの尊厳を大切にす人間関係を築いている。</p>		
19	<p>本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の自宅へ訪れるような気持ちになれる環境づくりに心掛けている。じっくりと会話を繰り返している。</p>		
20	<p>8 馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの人に、これまで同様の関係を続けられることを知ってもらうため、生活の様子を積極的に伝えていく。</p>	<p>知人の面会や馴染みの場所への外出・年に一・二回ご利用者の行きたい場所への外出も行われており関係が継続できるよう支援されています。</p>	
21	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>喜怒哀楽の感情や異なる考え方を受容して、個性が発揮できる関係になるように、職員がさりげなく関わっている。</p>		
22	<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス利用終了後も良好な関係を継続するとともに、適切な助言や支援に努めている。</p>		

その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の要望は可能な限りその場で実現できるように努めている。本人が家族に語る本音を聞かせてもらっている。</p>	<p>ご本人やご家族の思いや意向を入所時に聞き取り、またご本人の要望は出来る限りその場で実現できるように支援されています。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>日常の会話を大切にすると同時に、写真等で本人が回想でき職員が入居者の人生を感じられるような工夫にも努めている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>詳細な記録で共通理解を図っている。また職員の定めたケアにならないように、本人の変化に応じて柔軟に対応している。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族が望む生活に、介護・医療の専門職員が助言や提案することで、実現可能な介護計画の作成に努めている。</p>	<p>ご本人やご家族には日頃の会話や関わりの中で思いを把握し、また面会時にタイミングが会えば、話し合いの場を設けるなど努められています。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>単にサービスの提供内容を記載するだけでなく、今後の生活に活用できる記録にして職員間で共有している。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人が介護を受けるだけの場所ではなく、家族や地域住民が交流できる場所になるよう努めている。</p>		
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>頻繁に地域社会に参加することで、入居者自身の認識や意欲が向上して、楽しみが増えている。</p>		

30	11	<p>かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者全員が協力医療機関の受診を希望している。個別に必要な医療を受けられるよう柔軟に対応している。</p>	<p>入居者全員が協力医の往診ですが、利用者、家族の希望に添い、今までのかかりつけ医の受診も可能です。通院介助もされており、適切な医療を受けられる支援がされています。</p>	
31		<p>看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護との連携に努めている。また法人内の看護師からも適時の支援が受けられる体制になっている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>適切に治療ができるよう援助している。病院へ速やかな情報提供するとともに、ホームへ退院するための調整を行っている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人・家族が望む場合に、終の住まいとなれるよう支援している。</p>	<p>早い段階から重度化や終末期について入居者・家族と話し合いをもたれています。家族の希望があればできる限りの支援がされています。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時マニュアルを周知するとともに、実践できるように研修している。</p>		
35	13	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年間2回の消防避難訓練の実施している。また災害時の備蓄を備えている。</p>	<p>消防署の立ち合いのもと年2回避難訓練が行われています。又、地域の防災訓練にも参加し、地域との協力体制を築いています。</p>	

・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの考え方を否定することなく傾聴している。居室等におけるプライベートな空間では、職員が本人の許可を得てから援助している。	入居者の気持ちを大切にされ、さりげない対応や言葉かけがされており、利用者一人ひとりの人格を尊重されています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は具体的な援助や業務を実施するだけでなく、ゆっくりと語り合い、入居者が意思を表出しやすい雰囲気を提供している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を控えてでも入居者の望みに応えることを優先させている。自己決定が当然だと感じられるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近所の理美容院にでかけたり、外出時には、おしゃれを楽しんだりしている。日頃も本人に服を選んでいただく。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や準備・片付けに関わってもらうだけでなく、食事が有意義な団楽の時間になるように環境を整えて援助をしている。	食事の準備や後片付けは入居者と共に行われています。メニューは法人の管理栄養士が決められていますが、好みも取り入れられています。又、都道府県の郷土料理を作られ、食事に楽しみがもてるように支援されています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士の献立を基本に食事を提供している。主体的に食事を楽しんでもらいながらも、摂取量等の管理を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや義歯洗浄を行っている。治療や専門的な歯科衛生が必要な場合は、週に一度の歯科往診を利用している人もいます。		

43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>可能な限り自立できる援助を提供している。介助が必要な場合も、より不快感が少ない方法を検討している。</p>	<p>排泄表の活用で排泄パターンや、個々の状態やサインを把握し、利用者にあった排泄方法を共有し実践されています。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>栄養管理・食事・水分摂取・運動で排便を促すよう努めている。薬を使用する場合も、医師・薬剤師と十分に検討している。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>自由に入浴できるよう配慮している。その都度に声を掛けて、本人の意向を確認している。</p>	<p>週に3回入浴されています。各ユニットに形のお風呂があり、どちらに入浴されてもいいようになっています。又、重度化にも二人で対応するなど、個々に応じた入浴の支援がされています。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>生活の時間割を決めていない。健康や清潔に支障のない限り、自由に過ごしてもらっている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬は職員が管理している。薬剤師と連携して、安全に服用してもらっている。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりの、できること・やりたいこと・得意なことを、職員が把握して、張り合いや喜びを提供している。</p>		

49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩や買物などの機会を多く設けている。職員が促す以外でも、外出の要望や希望があれば、すぐに対応している。</p>	<p>外出の要望があれば、その都度散歩や買い物に行かれています。又、個別に外出も行われており、個々に合った外出支援がされています。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>預り金を管理して、買物等の際には、自身で支払いをしてもらっている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の要望があれば、ホームから掛けられるよう支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>料理の匂い・日差し・生活の音等が、心地よい刺激として聞こえる空間になるよう取り組んでいる。</p>	<p>家庭的な雰囲気であり、共用空間にはソファやテーブルが置かれています。又、雛人形を飾るなど、季節感が感じられ、居心地よく過ごせる環境作りに配慮されています。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間であっても、入居者同士が密着できる場所と、距離を置ける場所を用意している。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅から使い慣れた物を持ち込んでいただいている。本人のみならず家族の訪問時にも居心地が良くなるよう工夫している。</p>	<p>以前の部屋へ近づけるよう家族・入居者と話し合われ、家具の配置を決められています。また、居室への持ち込みの制限はなく、以前から使用している馴染みの物を使用され、居心地良く過ごせる空間になっています。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>「できること」を見つけやすい環境を提供して、自主的な取り組みができるよう、さりげなく接している。</p>		

アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない</p>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回ある たまにある ほとんどない</p>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての利用者と 利用者の3分の2くらいと 利用者の3分の1くらいと ほとんどできていない</p>
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどいない</p>

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くない
66	職員は生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族が 家族の3分の2くらいが 家族の3分の1くらいが ほとんどできていない